

金澤大學入學者選抜要項

金澤大學入學志願者は左記要項並に裏面金澤大學入學案内を熟讀の上出願せられたい。

一、募集人員

藥學部	四〇名
工學部	一四〇名
法文學部	三〇〇名
理學部	一八〇名
教育學部	三五〇名

（甲類 一〇〇名（理學部の専門課程履修を希望するもの）
乙類 八〇名（醫學部進學を希望するもの）

第一部・第二部甲類	一六〇名
第一部・第二部乙類	一六〇名
第三部 体育科	三〇〇名

二、入學資格

左記のうち昭和二十四年度新制大學進學適性検査（昭和二十四年一月三十一日及び二月二十八日施行）を受けた者に限り入學資格がある。

- 新制高校を卒業した者
- 通常の課程により十二年の學校教育を修了した者（通常の課程以外の課程によりこれに相當する學校教育を修了した者を含む）
- 新制高校を卒業した者と同等以上の學力があると認められた者即ち

- （イ）舊制高校高等科又は大學豫科の第一學年修了者
- （ロ）專門學校又は中等學校卒業程度を入學資格とする專門學校豫科の第一學年修了者
- （ハ）男女高等師範學校、實業教員養成所又は臨時教員養成所の第一學年修了者
- （ニ）師範學校本科（昭和十八年勅令第九號施行以前のものを除く）又は青年師範學校の第一學年修了者
- （ホ）各都道府縣において行なう新制大學の入學資格を認定する試験に合格した者
- （ヘ）その他昭和二十三年五月文部省告示によつて示されている文部大臣の指定した者

三、入學願書受理期間

四、出願手續

入學志願者は所定の入學志願者名票に必要事項を洩れなく記入の上入學検定料金四百圓（現金又は小爲替）及最近撮影の寫眞二葉（所定の台紙に貼付のこと）を添え出身學校に提出し出身學校においては本人に關する調査書を作製して取纏めの上金澤醫科大學宛に送付する。但し事情によつては本人から志願者名票及検定料を直接金澤醫科大學に提出して出身學校にその旨届出で調査書の進達を依頼する様にしても差支ない。

（注意）

- 廢校又は罹災その他の事情によつて出身學校の調査書を得られない者は卒業證明書及成績通信簿其の他の志願者に於て提出できる書類でこれに代えてもよい。尚本人が罹災等によつて前記書類をも整えられない場合は出身地方長官（外國及び外地引揚者に於ては引揚事務所管廳をも含む）又は出身學校長等が作製したこれに關する證明書を提出すること。其の他試験檢定等による合格者は當該試験の證明書を以て調査書に代えることができる。
- 現在他大學に在學中のものは當該大學々部長又は學長の受驗承認書を、又現在官廳に勤務中のものは所屬長の受驗承認書をそれぞれ添付すること。
- 書類を郵送する場合には封筒の表に必ず「入學願書」と朱書すること。

五、入學願書送付先

金澤市土取場永町 金澤醫科大學

六、入學者選抜の方法

入學者の選抜は筆答試験と身体検査及び出身學校長から提出された調査書の各成績を綜合して決定する。

筆答試験は進學適性検査（昭和廿四年一月三十一日及び二月二十八日に施行す）と學力検査の兩者とする。

志願者が募集人員に満たない場合でも選抜試験を課し入學資格ありと認められた者を收容する。

七、學力検査施行方法

新制高等學校卒業程度において志願者の創造的能力を客觀的に檢出することを目的として左の五教科群の全部に涉つて問題を出し、それぞれの教科群の中からこれに含まれる教科のうちの一を選択して解答させる。

國語

社會——一般社會、國史、東洋史、西洋史、人文地理、時事問題——以上六教科を含む

數學——解析Ⅰ、解析Ⅱ、幾何——以上三教科を含む

理科——物理、化學、生物、地學——以上四教科を含む

外國語——英語、獨語——以上二教科を含む

（附）數學の範圍

解析Ⅰ 簡單な微積分と確率とは含むが微積分の應用と統計は除外する。これを新制高校教科書「解析Ⅰ」について明示すれば、第三章§12・§13・§14の證明（結果を利用することは差支ない）及雜題を除外する

第四章、第五章、第六章のうち§1—7及び§11以下を除外する

幾何 新制高等學校の教科書「幾何Ⅰ」を全部除外する

2. 社會のうち一般社會と時事問題とは共通の問題を課する

3. 國語の「作文を含む

4. 教育學部体育科志願者には右の外實技の試験を課する

5. 同一教科群中二教科以上に涉つて解答したものは無効とする

八、學力検査期日及場所

六月十五日 〔自午前九時 至午後一時〕 理科及作文

六月十六日 〔自午前九時 至午後一時〕 國語及社會

六月十七日 〔自午前九時 至午後一時〕 體育（教育學部体育科志願者のみ）

検査場は第四高等學校（金澤市仙石町）及石川師範學校（金澤市彌生町）とする。受驗者の配分、教室の配置等詳細の点に就ては六月十四日第四高等學校に掲示するからそれによつて承知されたい。

九、身体検査

期日 六月十七日より六月十九日まで

場所 金澤醫科大學

詳細の点に就ては六月十四日第四高等學校に於て揭示する。

一〇、合格者發表

入學を許可すべき者の氏名は六月二十四日頃第四高等學校に於て發表すると同時に本人に通知する。

注意事項

一、出身學校から出願の進達があつた時又は個人からの出願であつて書類が整つた時は之に對して受驗證票、入學檢定料受領書等を交付する。この場合郵便を以てその送付を希望する者は返信用の封筒（住所氏名を明記し郵便切手、普通便、速達便共其の相當額を貼付のこと）を封入して届出で置かれたい。

二、學力検査及び身体検査の際には進學適性検査受檢票及び受驗證票を必ず携帯すること。これを所持しないものには受驗を拒絶することがあるかも知れない。

三、一旦納付した入學檢定料は如何なる理由があつても返却しない。

四、入學試験に關する電話による問合せは一切受付けない。

金澤大學入學案内

一、金澤大學の成立

學校教育法が施行せられて、教育制度が根本的に改革せられた結果、舊制の大學、高等專門學校は漸次新制大學に切りかえられることになった。これまでに金澤市にあつた金澤醫科大學、同附屬藥學專門部、金澤高等師範學校、石川師範學校、石川青年師範學校、第四高等學校、金澤工業專門學校等七つの直轄學校も着々その準備を整えつゝあつたがこの程文部大臣の認可を得たので愈々昭和二十四年度から新制綜合大學として發足することになった。

二、金澤大學の目的

新制度の大學は學術の中心として廣く知識を授けるとともに、深く専門の學藝を研究し知的、道德的及び應用的能力を展開させることを目的としている。この意味に於て金澤大學は最高教育機關として、又學術文化の研究機關として重要な使命を持つてゐる。

三、金澤大學の學部

金澤大學は上記七つの直轄學校を基盤として新しく生れ出る綜合大學であるが、これらの學校は何れも市の中心部を距ること遠くなく、統合連絡にさしたる不便はないから綜合大學としての機能を充分に發揮することが出来る。

金澤大學に置かれる學部は醫學部、藥學部、理學部、工學部、法文學部、教育學部の六つである。

醫學部は金澤醫科大學の施設を、藥學部は同附屬藥學專門部の施設を、工學部は金澤工業專門學校の施設をそれぞれ使用することになつてゐる。又理學部は第四高等學校の校舍を使用し、法文學部の教室は金澤城址内にある舊軍用施設を利用することになつてゐる。教育學部は石川師範學校の施設を使用するが、これも近く城址内に移る豫定である。

以上六學部のほかに尙一般教養部がある。各學部の學生が専門的な課程に進むまではこゝに所屬して一般教養課程を履修することになつてゐる。一般教養部の教室はすでに城址内に準備されてゐる。

四、各學部の學科

各學部は更に幾つかの専門學科に分れていて學生は専門課程に進む際に各自の素質と志望に應じて専攻學科を選択決定する譯であるが、金澤大學の各學部に置かれる學科は醫學部に醫學科、藥學部に藥學科、工學部に土木工學科、機械工學科、工業化學科、化學機械學科及び電氣工學科の五學科、理學部に數學科、物理學科、化學科、生物學科及び地學科の五學科、法文學部に法學科、文學科の二學科である。法文學部の内文學科は更に哲學科、歴史學科、國文學科、英文學科及び獨文學科に分れてゐる。教育學部のことばあとに更に説明するが、第一部、第二部、第三部に分れてゐる。

五、學科履修の方法

金澤大學の修業年限は一般教養課程、専門課程を通じて四年である。但し醫學部は専門課程のみで四年、教育學部の第一部、第二部乙類は一般教養課程、専門課程を通じて二年である。學科目はこれを一般教養科目、専門科目及び体育に分ち前期一年半の間に一般教養科目を履修させ、後期二年半の間に専門科目を履修させる。体育は全學年を通じてこれを課する。但し醫學部に進學を希望するものは理學部乙類に於て二年の一般教養課程を履修しなければならない。理學部に進學を希望するものは理學部甲類に於て一年半の一般教養課程を履修するものとする。學生は一般教養部及び各學部において規定する學科目を履修して所定の單位數を取らなければならない。單位の取得は所定の試験によつて認定される。單位に關する詳細な規定は別に定めてある。

六、一般教養部

新制大學の一つの特徴は一般教養の重視されることである。専門的な狭い分野に入る前に社會科學、人文科學、自然科學の廣い基本的な科目を學ぶことは、自由で、とらわれない人生觀、世界觀を確立するためにも、人格を完成し國家社會の健康な形成者となるにも、又専門的な研究の廣い基礎を確保するにも大切なことである。金澤大學ではこれらの基本的な一般教養課程を履修する學生を一般教養部に所屬せしめて統一的に授業を行ふことになつてゐる。入學者を選抜する際には將來の志望に應じて各學部別に採用するが、これは専門課程に進む際に豫想される混亂を未然に防止する爲であつて、學生が一般教養部に屬する間は以上述べたような観点から教育される譯である。

七、一般教養部の學科履修方法

一般教養部の學科課程が社會科學、人文科學、自然科學の三部門に分れることは前述の通りであるが、この各々の部門には更にいくつかの學科が含まれてゐる。例えば社會科學には法學、政治學、經濟學、社會學、統計學、人文科學には哲學、心理學、倫理學、外國語、歴史學、人文地理學、國文學、漢文學、自然科學には數學、物理學、化學、生物學、地學、力學、圖學などが含まれてゐる。學生は一年半(醫學部志望者は二年)の間にこれらの三つの部門の中の各々から少くとも二科目以上四〇單位を選択履修することになつてゐる。しかしこれは原則的なことであつて、實際においては將來の専門研究を參照してある程度學科の選擇、單位の取り方が大學から指示されることになつてゐる。規定の單位を履修しない者は専門課程に進むことができない。

八、教育學部の内容

教育學部の組織は稍特殊であるから特にこゝにその概要を説明する。教育學部は第一部、第二部、第三部に分れてゐるが、その内第一部は小學校、幼稚園の教員志望者を、第二部は中學校教員志望者を、第三部は高等學校体育科教員志望者を收容する。第一部、第二部は更に甲類、乙類に分れ、甲類の修業年限は四年、乙類の修業年限は二年である。第一部、第二部乙類の學生に對する一般教養は教育學部に於て行ふことになつてゐる。第一部及第二部の學生には授業料免除の特典がある。第三部体育科の修業年限は四年である。他の學部の學生であつて高等學校教員志望の者はこゝで教職學科を履修することになつてゐる。

九、大學院

學生が四年の修業年限の間に定められた單位を取つて卒業すると學士の稱號が與えられる。新教育制度においては學士にして更に深く學問の研究をなさんとするものために大學院を置くことになつてゐるが大學院に關する規程はまだできてゐない。

一〇、寄宿舎

城址内に約百五十名收容出来る學生寄宿舎の設備がある。

一一、其他

金澤大學には専攻科、別科、委託生、聽講生、公開講座、通信講座等を置くことになつてゐるが詳細なことはまだきまつてゐない。

昭和二十四年四月

金澤大學